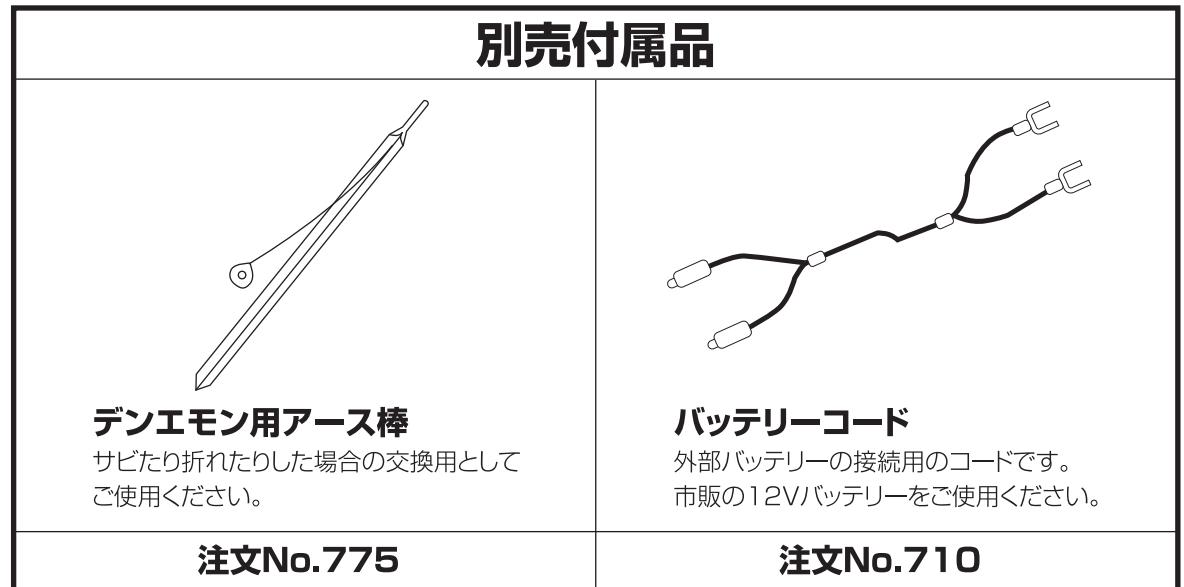


故障かな？と思つたら

症状	原因	対策
ショックが弱い	漏電している	・さく線の点検を行ってください。詳細は10ページのさく線の不良箇所を参照してください。
	アース不良	・アース線が切れていないか点検してください。 ・地面が乾燥した場所にアース棒を打ち込んでいないか確認してください。 ・アース棒がサビていないか確認をし、サビがひどい場合は交換してください。(別売)
動かない	故障	・本体の故障。当社又は販売店へ御連絡ください。
	電池切れ	・単1アルカリ乾電池を交換してください。
	スイッチの入れ忘れ	・確認してください。
	設置場所	・夜間でも周囲が明るい場所では作動しません。確認してください。

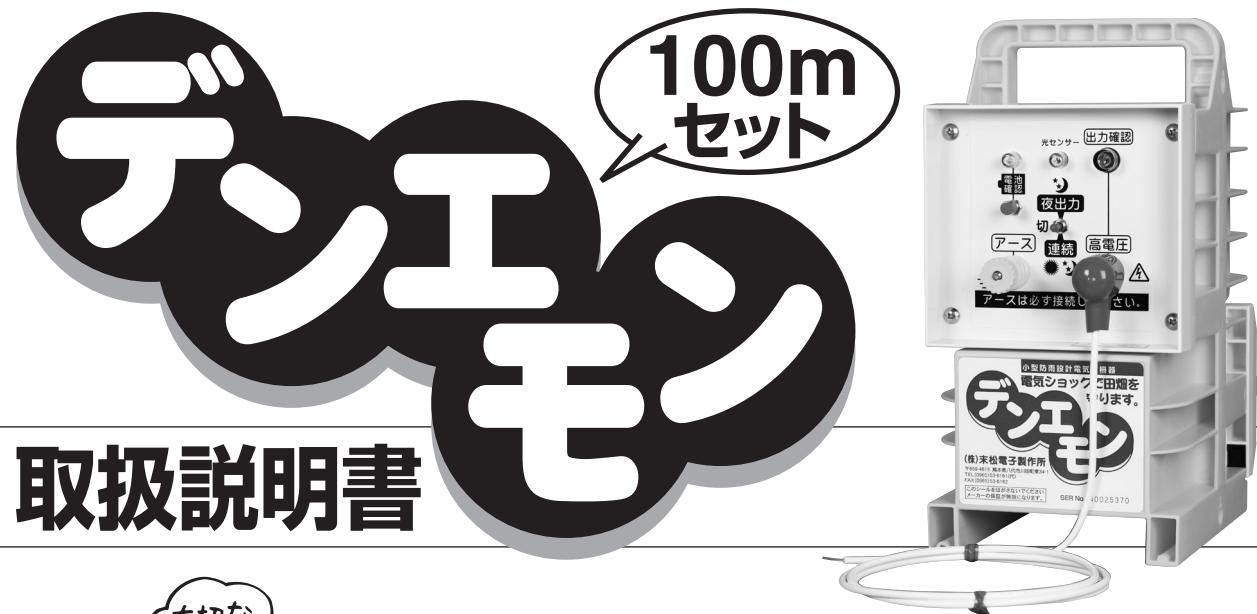


KSDS 株式会社末松電子製作所

〒869-4615 熊本県八代市川田町東34-1
TEL(0965)53-6161(代) FAX(0965)53-6162

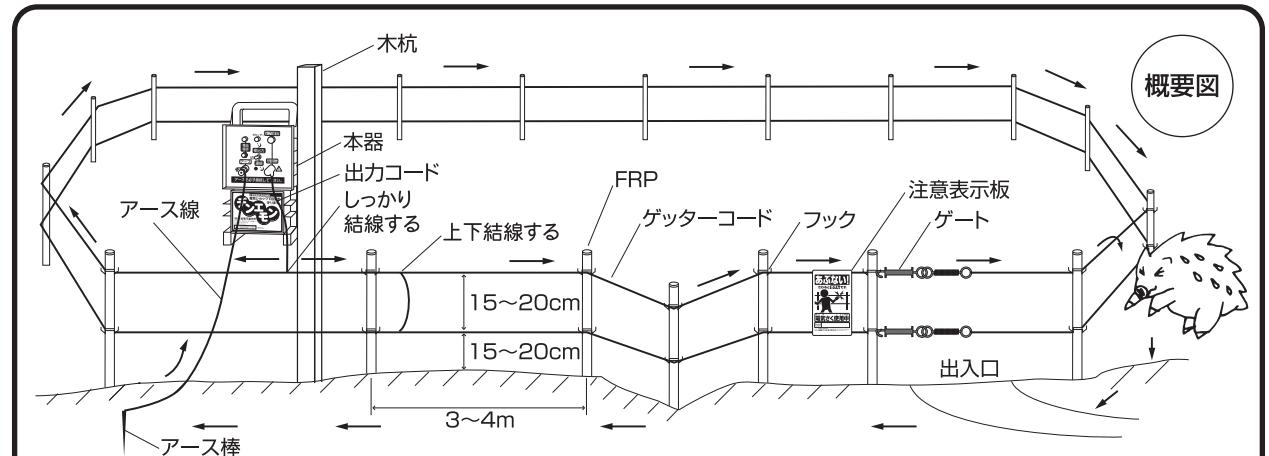
●ホームページアドレス <http://www.getter.co.jp/>
●メールアドレス info@getter.co.jp

MADE IN JAPAN



- この度は、小型電子牧柵器「デンエモン」をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
- 本器は、移動・設置が簡単な小型防雨設計の電子牧柵器です。衝撃電流を動物に与え野生の野犬・タヌキ・イノシシ等から田畠を守ります。電気ショック式ですので馴れることがありません。田畠から家庭菜園まで幅広くお使いいただけます。

●お願い
ご使用前にこの説明書をよくお読みのうえ正しくお使いください。
なお後々のためにも、この説明書は大切に保存してください。



動物に電気ショックを与え動物を追い払い大切な農作物を守るシステムです。
電気ショックですので慣れることはあります。
本体の出力から出た衝撃電流は矢印のように柵線を通り動物の体内に流れ、足から地面に流れ地中からアース棒を通って本器のアース端子に戻ります。この時、動物に強いショックを与えます。動物は柵は危険(柵に近づくと危ない)という事を学習しますので近寄らなくなります。

KSDS 株式会社末松電子製作所

箱を開けたらまず…

●セット内容をお確かめ下さい。



- ①本器 デンエモン…1台 ④10mm支柱………30本 ⑦10mmフック……60個
②注意表示板………2枚 ⑤デンエモンコード100m巻…2巻 ⑧ゲート………2個
③デンエモンアース棒…1本 ⑥ゲッターアルカリ電池12V…1個 ⑨ショックテスターT1…1個

●取扱説明書 ●保証書

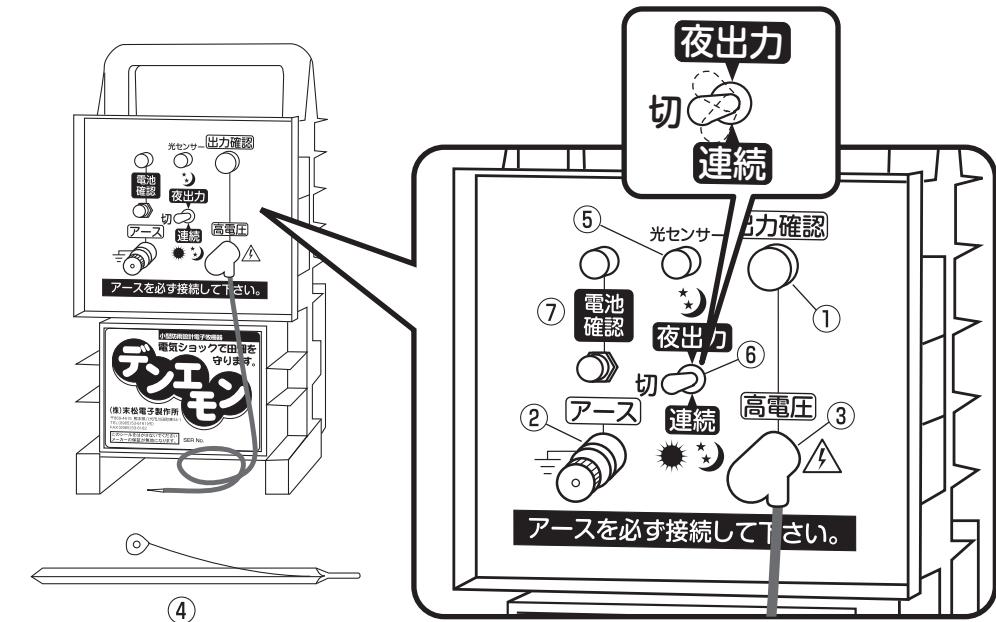
本器にはアルカリ単1乾電池8ヶが付属しています。

※この付属している乾電池を使いきったあとに電池を交換される場合は、
アルカリ乾電池を8本ご用意ください。
※取付ける際に、取付方向を間違えないようご注意ください。

本セットは100mの田畠などを囲むことができますが、地形や場所により支柱の
本数が変動しますので周囲100mを張設できない場合があります。

操作・設置をする前に

●各部の名称と働き



①出力ランプ

衝撃電流が正常に出力されているか
確認するランプです。

②アース端子

アース棒からの線の接続用端子です。

③出力コード

本器からさく線へ衝撃電流を出力す
るコードです。

④アース棒

地中に埋め込みアースをとる棒です。

⑤光センサー

回りの明るさで表示するランプです。

⑥連続・夜出力切替スイッチ

衝撃電流の出力パターンの切替えスイッチ
です。スイッチは3段切換になっています。

- 上は [夜出力] 暗くなる夜の時のみ作動します。
- 中央で [切] です。衝撃電流は発生しません。
- 下は [連続] 24時間作動します。

⑦電池確認スイッチ・ランプ

電池の残量を確認するスイッチです。

- スイッチを押し、ランプが『点灯』すれば
電池の残量は充分です。
- スイッチを押し、ランプが『点灯しない』
場合は内蔵の乾電池を交換して下さい。

性能表

寸 法(本器)	:たて288×よこ138×奥行232mm
重 量	: 1.3kg
出 力 電 壓	: 約7,500V
出 力 間 隔	: 約1.1秒
電 源	: 12V(アルカリ単1乾電池でご使用ください。 12Vバッテリー(外部接続用のバッテリーケーブル、端子)別売)

※仕様等は、改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

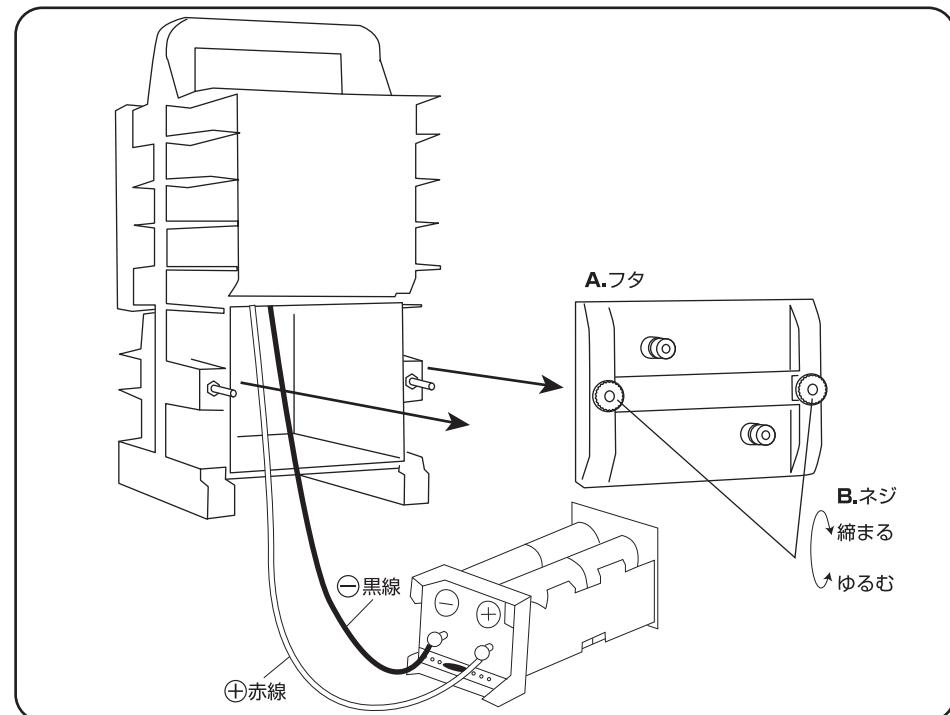
電源の接続・取り替え方法

●アルカリ電池の取り付け・交換方法

■アルカリ電池ケースの取り付け方

下の図のように、

- ①**A.**のフタの**B.**のネジをゆるめて取り外します。
- ②付属のアルカリ電池ケースを接続してください。
+赤線を電池ケースの+端子に、-黒線を電池ケースの-端子にそれぞれ接続してください。
- ③本器の中に電池ケースを収納して、**A.**のフタを閉めます。



■アルカリ電池の取り替え方

上の図のように、

- ①**A.**のフタの**B.**のネジをゆるめて取り外します。
- ②内蔵の電池ケースを取り出します。
- ③単1アルカリ電池全部(8個)を取り出し、新しい単1アルカリ電池8個を取り付けます。
- ④本器の中に電池ケースを収納して、**A.**のフタを閉めます。

※新しい電池と使用した電池の混用、異種電池の混用はしないで下さい。

●電池の使用が終わりましたら、ケースより単1アルカリ電池は取り外して保管下さい。液もれの原因となります。

●外部電源(バッテリー)の取付け方法 [バッテリーケーブルは別売です。]

12Vバッテリーからも使用できます。

図1

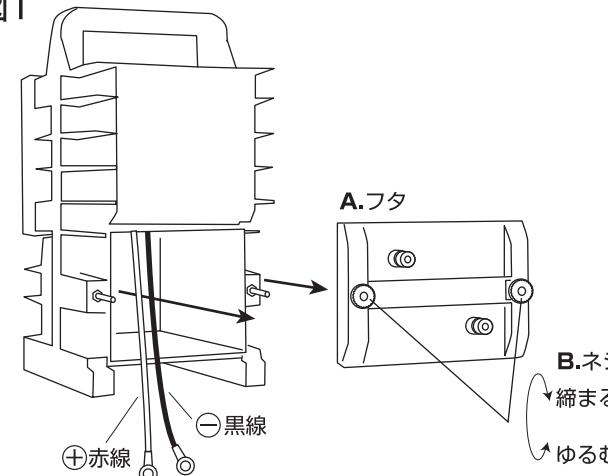


図2

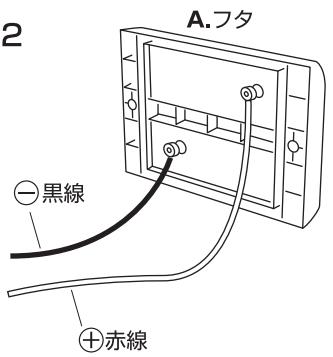
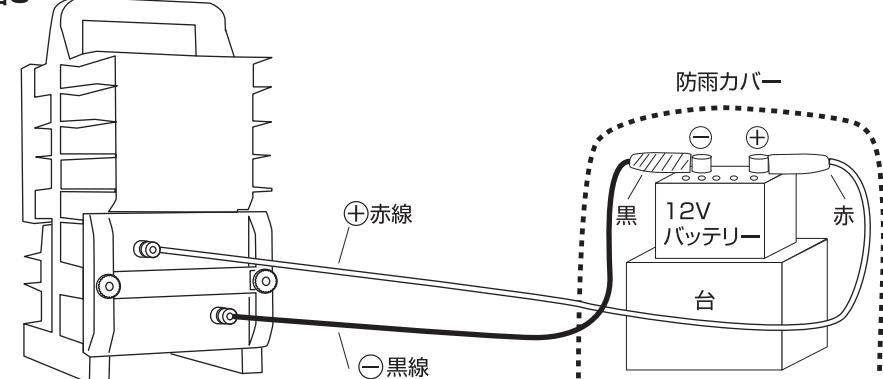


図3



①図1のように、**A.**のフタを**B.**のネジをゆるめて取り外します。

②図2のように、内蔵のコードを**A.**のフタの内側の端子に+/-を確認して接続し、**A.**のフタを閉めます。

③図3のように、バッテリーケーブルを使って本体側の端子+/-を先に接続し、最後にバッテリー側の端子+/-に接続します。バッテリーは防雨のためにカバー等でおおいます。

※バッテリーケーブルは別売ですので、ご購入された販売店へご相談ください。

設置をする

●設置の際に、お客さまにご準備いただくもの

・本器取り付け用木杭(約1.5m) ・本器取り付け用釘2本 ・木づち ・ペンチ

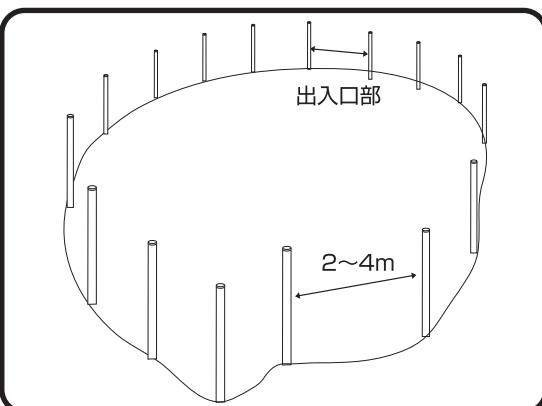
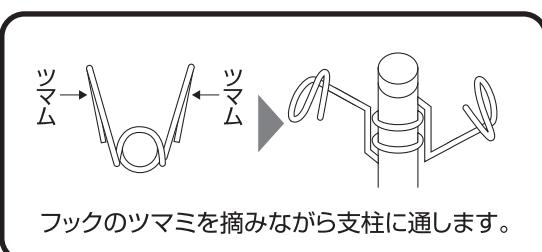
1.準備

電気柵のコースを決めて、コース上の下刈を行なってください。

2.フックの取付け

①右図の様にフック両端をつまむと輪が広がります。支柱に差し込んで放すと固定されます。

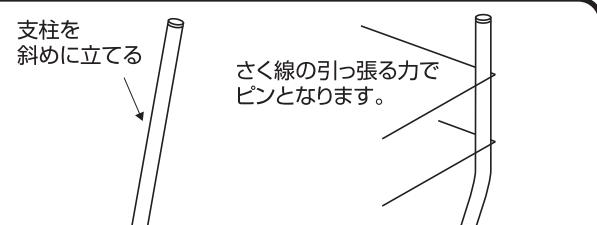
②支柱1本に対しフック2ヶ取付けます。



ポイント

支柱の立て方のポイント

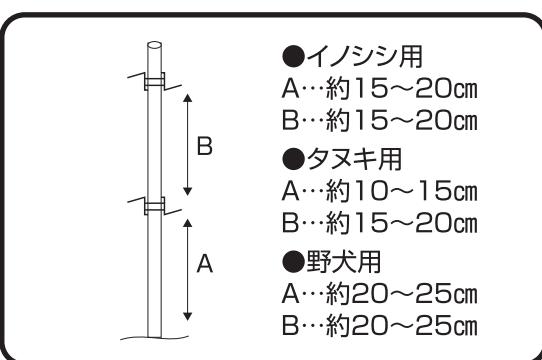
コーナーになる支柱は、右の図のように地面に対して斜めに立てるとさく線がピンと張れます。



4.フックの高さ調整

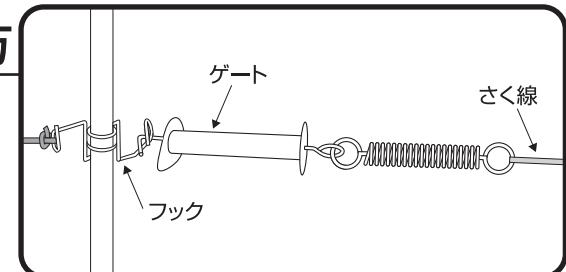
フックの高さは、地面より15~20cm(イノシシ用)2段目も同じ高さです。

外敵により柵線の高さは異なりますのでご注意して下さい。
くれぐれもさく線の下をくぐられないようにご注意ください。



5.出入口(ゲート)取付け方

右図のようにフックに引っかけて使用します。



6.コードの取付け方

①【図1】のようにコードをフックにたるみなく張ります。

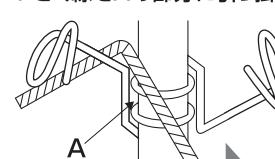
②上段から順に張った方がたるみが少なく張れます。

③【図2】のように最後に上段と下段を余ったコードで上下結線して下さい。(全体で2ヶ所程)

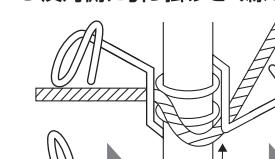
④さく線がゆるんだ時は【図3】のようにたるみを調整してください。

【図1】さく線の取り付け

1.さく線をAの部分に引っ掛ける。



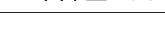
3.反対側に引っ掛けさく線を張ります。



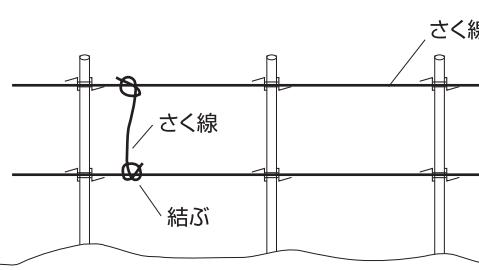
2.さく線を取り付けさく線を張ります。



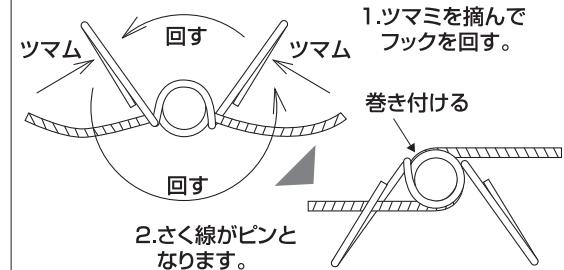
4.出来上がり。



【図2】上下結線



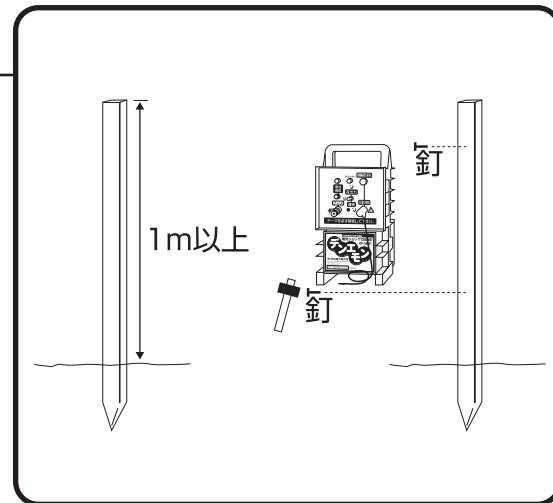
【図3】さく線のたるみ調整



設置をする

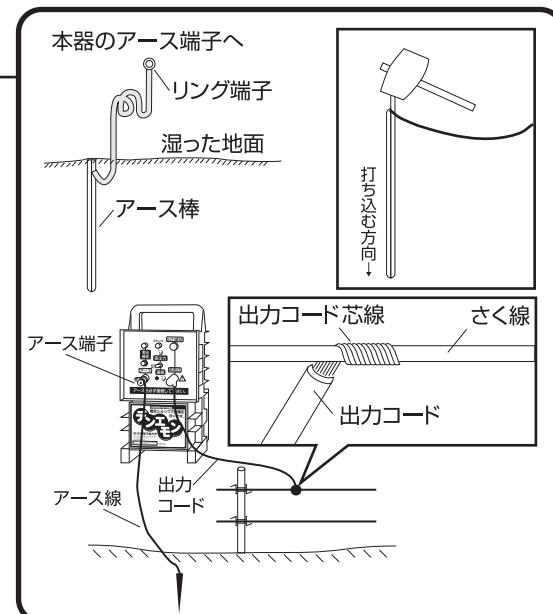
7.本器の設置

- ①本器取付け用支柱を柵の内側に地上1m以上になる様に打ち込む。
- ②本器取付用の釘を打つ。
- ③本器上部のマル穴を釘に掛け、本器下部のマル穴に釘を打って取り付けます。
防雨型ですので、屋外にそのままでもOKです。
- 日中でも暗い場所に設置しますと、夜間スイッチにした場合に、通常より早く作動しますので。明るい場所に設置してください。



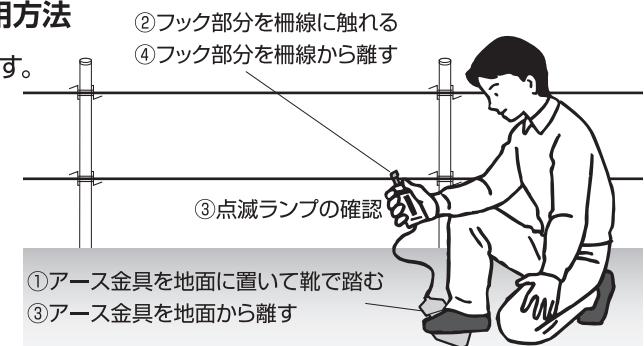
8.アース・出力コードの接続

- ①湿った地面にアース棒を打ち込み、地中に埋めてしまいます。
- ②図のように、本器の前面パネルより出ている出力コードの先端の芯線を、さく線にまきつけしっかりとしばり接続します。さく線は、上段でも下段でもかまいません。
- ③注意表示板を、人目の付く所に掲示してください。



■検電器(ショックテスターT1)の使用方法

- ①アース金具を地面に置いて靴で踏みます。
 - ②フック部分を柵線に触れます。
 - ③点滅ランプの確認。
 - ④フック部分を柵線から離します。
 - ⑤アース金具を地面から離します。
- 上記①→②→③→④→⑤の手順をお願いします。
- ※感電にご注意下さい。
- ②→①や⑤→④の手順ですと感電してしまします。

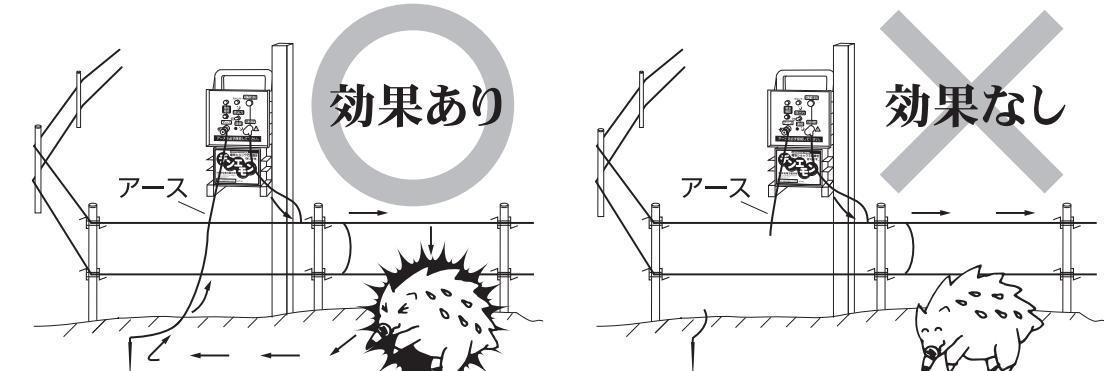


注意

効果の決めてはアースです。

正しくアースされていないと効果がありません。
アースはとても大切です。

アースをしないと、電気柵としての効果は全くありません。電気は動物から地中を流れて本器にもどり動物にショックを与えます。

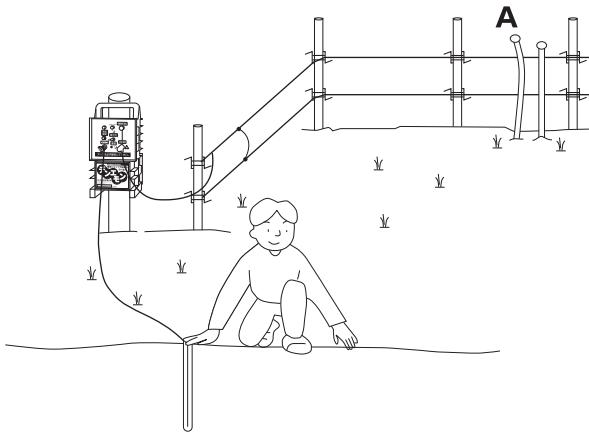


電気は動物から地中を流れて本器にもどり回路が作られて電気ショックを与えます。

●アースの試験

- ①アース棒から50メートルぐらい離れたさく線を、金属棒等で大地と接続し(図中のAのように)電気が大地へ流れるようにします。
- ②本器のスイッチを「連続」にし、作動させます。
- ③そして、図14のように片手をアース棒、もう一方の手を地面にふれます。
- ④この時、電気を感じなければアースは充分です。又、この時、電気ショックを感じる時は不充分です。
- ⑤アース試験がおわりましたら、図中のAの金属棒は必ずとりはずして下さい。

●図14 アースの試験法



9.出力の確認

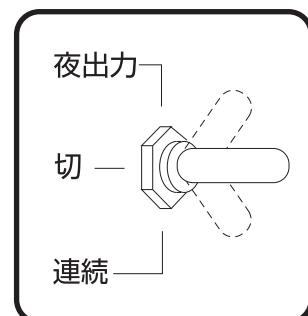
連続 へ倒し、出力ランプが点滅するかどうか確認して下さい。

●出力ランプが点滅する場合

全て良好です。

●出力ランプが点滅しない場合

この時は、さく線に不良があります。さく線に草木がついたり、地面にアースしていないかよく見廻り手直しして下さい。点滅するようになれば正常です。光り方が弱い場合は、電池がなくなりかけているかアースが不足していると考えられます。電池の交換またはアースを増設してください。



●本器の試験

①スイッチ(A)を**連続**に倒します。この時本器は作動を始めます。

②出力コード(B)の先端を**図13**の(C)のように本器のアース部に近づけます。(この際間隔を3mm程度離して下さい。)

③**図13**のように約1秒間隔で火花を発生します。

この時この本器は正常です。

●火花を発生しない時は電池切れか故障です。

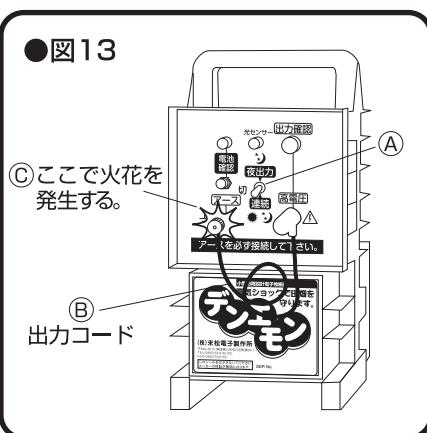
(a)電池切れが予想されるときは、新しい電池と入れ替えて下さい。

電池の稼動日数目安

連続	約90日
夜出力	約180日

(b)電池を入れ替えても火花を発生しない時は故障です。

この時は、当社へお送り下さい。修理を行います。



ラジオノイズ対策

電子牧柵器を長く使用していると、ラジオ・テレビに雑音が出ることがあります。これは、さく線のどこかに下記の問題が生じている証拠です。原因を明らかにして早急に対処してください。

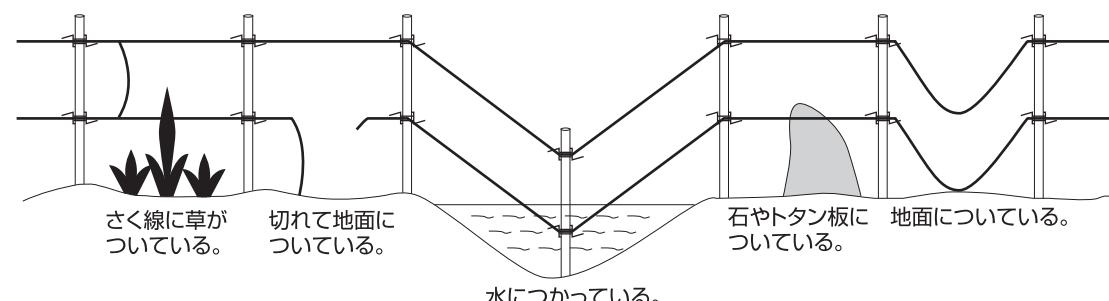
- 雑草や枝が伸びて、さく線と接触している場合
- 端子及び連結箇所の接続が不完全な場合
- 電子牧柵器本体が故障している場合(原因では1%以下)
- さく線が脱線しているか、断線している場合
- アンテナとさく線が平行になっている場合

効果的にお使いいただくために

さく線の管理

この施設は管理がとても大切です。※さく線に、下図のような不良がないか、特にご注意下さい。

●さく線の不良箇所



注意とお願い



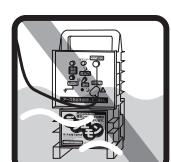
漏電に注意

電気柵は草等がさく線等に触れると、漏電しますので出来るだけ草等が触れない様管理して下さい。



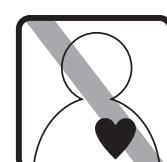
発火に注意

発火しやすい物が置いてある屋内の使用はしないで下さい。



水没に注意

電気柵本体は防雨型ですが、水中に浸してはいけません。



使用禁止

ペースメーカーや医療器機などが誤作動する場合がありますので、そのような場合は使用を中止して下さい。



大きな動物に注意

特に大きなイノシシは防ぐ事が出来ない場合もあります。



感電に注意

人がさく線に触れると感電します。特に子供さんやお年寄りの方がさく線に触れない様ご注意下さい。



注意表示板を必ず取付ける

電気柵を使用していることを近所や地域の人によく知らせ、本体に付属している注意表示板を園場の目立つ所に取付けて下さい。

●本器を分解したりむやみに改造等しないで下さい。

●本体の清掃にシンナー・ベンジン等を使用しないで下さい。

●アースを確実にして下さい。

●電気柵の使用が終わりましたら、電池ケースに取り付けてある単1電池は、本器より取り出して保管して下さい。